

日時:平成24年6月8日(金)

場所:製造科学技術センター

平成24年度MSTCアイデアファクトリー総会 発表資料

ものづくり戦略策定ツールの ソフトウェア実装と、 技術戦略シナリオ事例の具体化

Development of Monodukuri Strategy Tool and Case Studies for
Management of Technology Scenario

提案者:

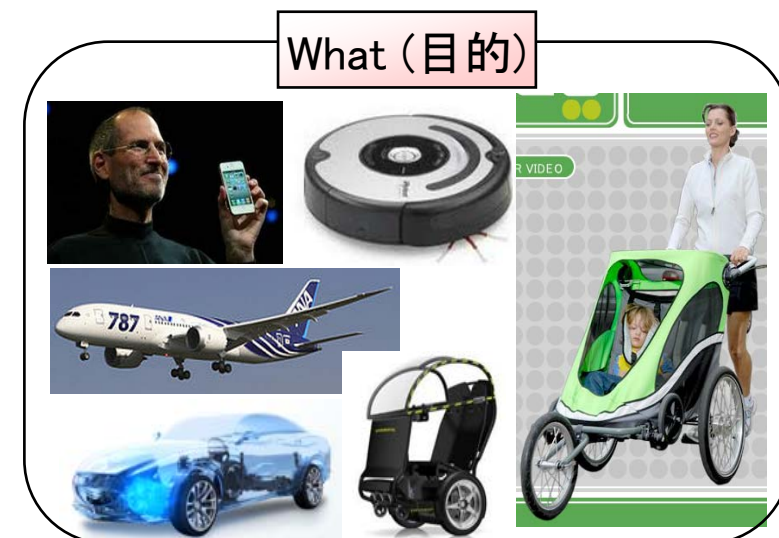
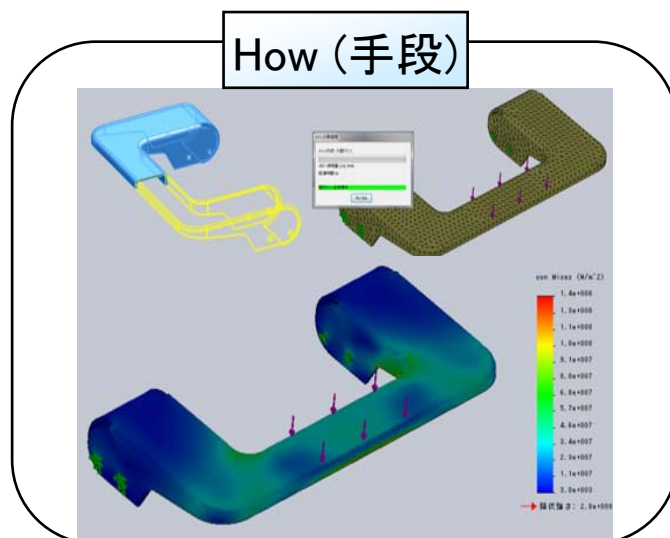
山口大学 古賀 毅

東京大学 鈴木 宏正

首都大学東京 下村 芳樹

背景と目的

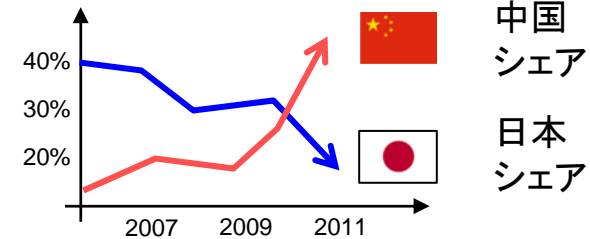
- 「**What to produce**」という視点が重要な時代の到来
 - ものづくりグローバル化, **新興国との役割分化**に伴う変化
 - 高賃金である**先進国のエンジニア**が, どのような成果を出すべきか?
 - 「How(手段)」から, 「**What(目的)**」への関心の変化
 - 「どうやって作るか?」から, 「**何を作るべきか?**」へのシフト
 - 「なぜ, わざわざそんな技術(製品)を開発しなければならないのか?」という問いを, 徹底して考え抜く必要がある
- 目的: 「**ものづくり戦略策定ツール**」の開発・実装・検証
 - What to produce の時代に対応した**イノベーション創出をマネジメント**するための, **戦略策定および意思決定ツール**
 - ものづくり企業の「**どのような環境下で**」「**どのような戦略で**」「**どのような技術・製品にフォーカスすべきなのか**」, という意思決定を, 支援する



戦略を導出するための一連のプロセス

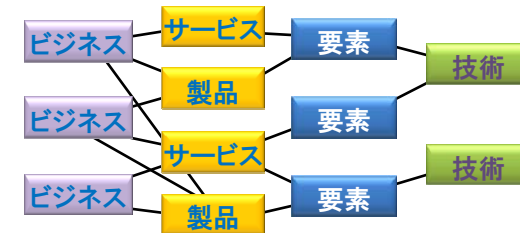
Step1: 「戦況マップ」から、現状を認識

- 自社シェア ⇒ 戦況を把握する
- 市場規模の推移 ⇒ 将来を予測する
- 分析 ⇒ 目標を設定する(撤退する分野)



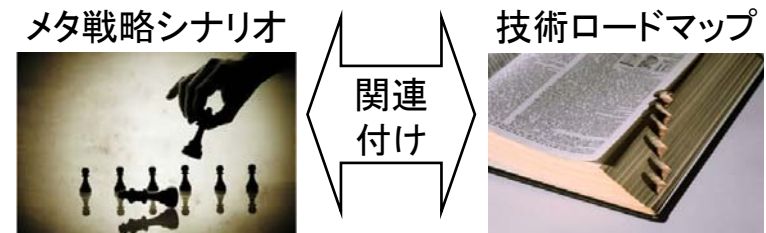
Step2: 「要素の関係」から、構造を理解

- 製品や要素, 基盤技術を抽出する
- 学際を把握する



Step3: 「目的と手段」を結びつけ、詳細な戦略を策定

- 目的: メタ戦略シナリオから構想
- 手段: 技術ロードマップから選択
- 基盤技術と, メタ戦略シナリオを関連付け, 詳細な戦略を策定



Step4: 「戦略と技術の対応マップ」を作成し、横展開

- 技術を横断的に体系化し, 全容を把握
- 技術の移転を促し, マクロな戦略の構築を実施

戦略と技術の対応マップ

		技術(手段)			
		技術1	技術2	技術3	技術4
戦略(目的)	シナリオ1	a,b	c	d	
	シナリオ2		e,f,g	h,k	i
	シナリオ3	j		l,m,n	

実施計画と期待される成果

- スケジュール, マイルストーンと具体的アウトプット
 - 2012年度:
 - (Must) S1) ものづくり戦略策定ツールのソフトウェア実装と配布・標準化, フレームワーク改良
 - (Must) S2) 実際の課題や事例を反映した詳細シナリオの具体化による知識の集積と技術移転の加速
 - 2013年度:
 - (Must) S3) 中長期展望となるメタ戦略シナリオの拡充と新規創成
 - (Want) S5) 「技術戦略マップ」を継続的に改良し, イノベーション促進に繋げる国家プロジェクトの提案

項目	担当	2012年度		2013年度	
		2012.9	2013.3	2013.9	2014.3
S1)ものづくり戦略策定ツールのソフトウェア実装および配布	山口大学 古賀 毅		→ 配布	-----→	教育展開
S2)技術戦略シナリオ事例の具体化	全員		↓ 事例収集	-----→	異分野展開
S3)メタ戦略シナリオの拡充と新規創成	首都大学東京 下村 芳樹		↓	→	
S4)妥当性の検証	会員企業			→	実証 (2)(3)
S5)国家プロジェクト提案書作成	東京大学 鈴木宏正				→ 統合

- 期待される成果
 - 近未来の戦略シナリオから, バックキャスティングによるコア要素技術の決定
 - 他分野の技術戦略シナリオ応用展開による新たなイノベーションの創出